



▲各学校の代表生徒の皆さん

私たちの未来は私たちが創る 合併20周年記念 古河市中学生の主張大会

12月2日、ユーセンターKI防水で古河市中学生の主張大会を開催しました。

市内中学校等の代表生徒20人が、自分自身の経験から感じたことや社会の動向、これからの古河市の在り方などについて、率直な思いや考えを堂々と発表。来場者は、生徒たちの真剣で熱のこもった主張に、最後までじっくりと聞き入っていました。



▲負けてたまるかという熱い気持ちで激しく提灯をもみ合う参加者。市内外から3万5千人が訪れました

受け継がれていく伝統 合併20周年記念 古河提灯竿もみまつり

12月6日、古河駅西口おまつり特設会場で第165回古河提灯竿もみまつりが開催されました。高さ約10メートルの矢來の中で、他団体の提灯の火を消そうと熱戦が繰り広げられ、雷電一丁目自治会が優勝。竿の長さを競う一番竿は七軒町自治会が6連覇を果たしました。

また、特別観覧席(こたつ席)などで提灯のぶつかり合いを間近で見た観客からは「熱気と迫力が伝わってきた」などの声が聞かれました。

共に生きるまちをめざして 合併20周年記念 Kogaインク ルーシブフェスティバル2025

11月30日、共和電設とねミドリ館でKogaインクルーシブフェスティバル2025を開催しました。

会場では物販や団体によるステージ発表のほか、市内小中学生・障がい者の作品を展示。また「きょうだいの絆」をテーマに、自閉症の画家・太田宏介氏の兄である太田信介氏による講演も行われ、参加者は共生社会への理解を深めました。



▲家族にしか分からない葛藤について講演する太田氏

外国人にも防災の知識を 災害時外国人支援研修



▲宗教上食べられない食材の有無を職員へ伝える参加者

11月17日、野本電設工業コスモスプラザで災害時外国人支援研修を開催しました。

市内在住等の外国人28人が防災講座を受講後、県内市町村職員と合同で避難所での聞き取り訓練を実施。参加者は「母国では災害訓練がなかった。お金や薬をバッグに準備しておきたい」と話すなど、防災の大切さを学んでいました。

芸能文化の祭典 合併20周年記念 古河市民文化祭

9月14日～12月21日、市内の12会場で市民文化祭が開催されました。

絵画・書・手工芸・華道等が展示される総合展のほか、さまざまな芸術文化のイベントが行われ、市内各団体が日頃の活動の成果を発表。舞踊の集いでは、幼稚園児から90代までの幅広い年齢の演舞者が舞踊を披露しました。



▲古河わくわく舞踊教室の生徒たちによる発表

ものづくりの面白さを体感しよう 古河のものづくり工場へ特別 潜入バスツアー



▲日野自動車株古河工場でボルトの締め付けを体験する児童

11月13日、市内在住の小学4年生から6年生とその保護者を対象とした工場見学を開催しました。

9組の親子がトモエ乳業(株)と日野自動車(株)古河工場を訪問し、製造過程や優れた技術を見学。児童からは「普段入ることができない現場を間近で見れて楽しかった」「将来はものづくりの仕事に関わりたい」などの声が聞かれました。